

湯布院歌謡集

由布院盆唄

揃うた揃うたよ 踊り子が揃うた 揃うた手拍子 足拍子

揃うた手拍子 足拍子 コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

わしが在所は 猪の瀬戸越えて 米の花咲く お湯どころ

米の花咲く お湯どころ コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

昨日(き)によう 生まれた ベベコの鼻に 蝶が飛んじ来ち 吸いついた

蝶が飛んじ来ち 吸いついた コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

露を払うち 朝草切れば 由布のお山に 陽が昇る

由布のお山に 陽が昇る コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

おかめ、ひよつとこ いらん世話やくな めんめ同志が 好いた仲
めんめ同志が 好いた仲 コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

盆の十五夜 馬屋(まや)んつし寝たら おどもお前も 薫(わら)だらけ
おどもお前も 薫だらけ コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

おばん飯炊け やせ馬食わせ 年に一度の 盆踊り

年に一度の 盆踊り コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

酒の四、五升じや まだまだ酔わぬ 六所(升)様とは おりがこつ
六所様とは おりがこつ コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

お庄屋が見込んだ 自慢の嫁御 飯も食わんじ 田を植えた
飯も食わんじ 田を植えた コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

阿蘇は坪先 九重(くじゅう)は納戸 城島別府は 座敷内
城島別府は 座敷内 コラヤノヤーアノ ドッコイシヨ

由布のひょうぐり踊り

ハア一年増女（おなご）と 湯の岳山は ヨイヨイ

秋に色づき 春に焼く

ヤツシヨマカシヨ ソゲンコタ イジヤネカ

一緒んなつち 踊ろうや

ハアー 生れついての 由布川螢 ヨイヨイ

甘めえ水ちゅち 騙された

ヤツシヨマカシヨ ソゲンコタ イジヤネカ

一緒んなつち 踊ろうや

宇奈岐日女から かき口説かれち ヨイヨイ

蹴裂権現 土手蹴つた

ヤツシヨマカシヨ ソゲンコタ イジヤネカ

一緒んなつち 踊ろうや

酒の四、五升じや まだまだ酔わぬ ヨイヨイ

六所様とは オリがこつ

ヤツシヨマカシヨ ソゲンコタ イジヤネカ

一緒んなつち 踊ろうや

由布の朝霧 もうこれぎりと ヨイヨイ

そつと二人で 会うたぎり。

ヤツシヨマカシヨ ソゲンコタ イジヤネカ

一緒んなつち 踊ろうや

盆の十五夜 馬屋んつし寝たら ヨイヨイ

おどもおまえも 薫だらけ。

ヤツシヨマカシヨ ソゲンコタ イジヤネカ

一緒んなつち 踊ろうや



田植え唄

わしが想いは 湯の岳山の
朝のヨイヨイ 霧よりやまだ深い
サンヤレまだ深い朝のヨイヨイ
霧よりやまだ深い

腰の痛さや この田のながさ
四月ヨイヨイ 五月の日のながさ
サンヤレ日のながさ四月ヨイヨイ
五月の日のながさ



こびき唄

こびきさんたちや 蝶々か鳥か
昼は野山の 木にとまる

アア シヨロツキン シヨロツキン

大工さんよりや こびきさんが憎い
仲のよい木を 引き分ける

アア シヨロツキン シヨロツキン

あなた思いに 身がやせほそる
思いやめたら また肥えた

アア シヨロツキン シヨロツキン



駄賃とり唄

いやでござんす 馬方あ、いやじゃ
朝は早よでて 夜もどる ホイ ホイ ホイ

嫁にゆくなら ゆふいんがよから
夏は涼しゅじ お湯が湧く

(ホイ ホイ 左カヤセ 右やホキド)



ほたる来い

ホー ホー ほたる来い
あつちの水は 苦いぞ
こつちの水は 甘いぞ
柄杓(ひしやく)を持つてこい
汲んでやろ

ホー ホー ほたる来い
あつちの水は 苦いぞ
こつちの水は 甘いぞ
行燈(あんど)の光を
ちよいと見て來い



湯布院小唄

由布と別府さ 妹背の仲よ
もゆる想いの お湯が沸く
由布と富士とさ 親子の山よ
雲居はるかな 伊達姿
ホンニソレソレ 伊達姿

見ませ水面に 湯煙なびく
春もうららの 金鱗湖
いで湯疲れの ほつれ毛わびし
狭霧降る夜の 三味さびし
ホンニソレソレ 三味さびし

お山暮れゆく 補野の霧に
月見草咲く キヤンブ村
お山明けゆく 雪晴れ日より
空のみどりが 眼にいたい
ホンニソレソレ 眼にいたい

